

五十二 遷靈祭詞（布教所長）

あな悲しあな淋しあな悼ましきかも故天理教△△△布教所長△△
△△大人御遺骸の御前に慎しみ敬い歎かいて白さく
あわれ汝大人はや遂にかしものかりものの現身を脱ぎ捨てて長の
年月住み慣れし懐かしきこれの現世より口惜しくも出直しましけ
り
百年千年の年を重ねて世の永人長人の名を負い給わむ事をし
家族親族は更なり汝大人を知る諸人達も常に頼しみ思いつつあり
しを 厳しき寒さの冬も去り漸く麗らかなる春を迎えしこの○月
体に異状を覚えられ程近き△△△病院に入院されしが 幸いに
も手厚き医療の甲斐ありて温かき我が家に退院されたり 汝大人
は既に昨年○月には古稀の祝も済まされし後 半生ながら今暫く
は老後の楽しみを子供達と共に十分味わわれむ事をしひたすら願
いてありけるを 去る○月○日再入院の止むなきに至り結果は
予想を超えた身の衰え強く 俄かに朝を迎え夕を過ごす力も尽き
果てこの年この月○日午後○時半御病改まり○○歳というを生き
の涯りと親神のふところの中とは云いながら遠く遙けき旅路に出
立ち給いぬ あな悲しあなくやし 然はあれども今更に限りある人
の力の得て及ぶべきにあらず 遺れる家族親族並に諸人等謀り定
めて定まれる式のまにまに歎かい悲しみつつも 今宵しも遷靈の
典儀厳かに仕え奉らむとする由を甘らに安らに聞食し諾い給いて
汝が靈はし新たに造り備えるこれの靈代に静けく穩にしばし遷り
留まり坐せと恐み恐みも白す